

# 令和7年度 第2回浮体式洋上風力発電施設の安全評価手法等検討会 議事要旨

## 1. 検討会概要

日時：令和7年11月10日（月）10時00分～12時00分

場所：海上技術安全研究所3号館別館会議室／オンライン（Teams）

## 2. 議事概要

### ○事務局からの説明

- 1) 係留システムの健全性評価のためのモニタリング方法について
- 2) 点検実績データの集計結果について
- 3) 検査シナリオ差異を明らかにするためのリスクモデルについて

### ○主なご意見

- 1) 係留システムの健全性評価のためのモニタリング方法について、支持浮体の位置の変化など計測しやすい情報を用いた方法を実海域で運用するためには、大規模な判定フローを構築していく必要があり、またブラインドテスト等を通じて、構築したフローが適切であるか検証する必要がある。
- 1) 係留システムの健全性評価のためのモニタリング方法について、係留系の破断発生個所が海底接地面の場合、重量等の影響により検出挙動が変化する可能性があるため、具体化する際には破断箇所の違いを加味できるとよい。
- 2) 点検実績データの集計結果を踏まえると、GW級のwindファームで、今の検査方法の枠組みでは、係留索だけで1年中間点検をしていることになる。検査手法の在り方について議論する必要が出てきている。
- 3) リスクモデルの考え方について、事業者の点検と国の検査の違いを明確にしつつ、着床式洋上風力発電の現状を整理し、すでに確立された点検と検査方法も含めて、リスク評価を行ってほしい。